



地域ぐるみでの農作業を体験！

- 中間市は、水稻・麦・大豆の土地型作物を主軸とした農業形態であり、これまで地元の児童・生徒に対し、枝豆狩りや稲刈り等の農業体験を実施していたが、新型コロナウイルス感染症等の影響により実施できない期間があったことから地元で作られている農作物の姿や栽培の様子を見たことがない子供たちが増加している。
- そのため、中間市認定農業者協議会や教育委員会と連携し、地元小学校の5年生を対象に、地元の農業者とのふれあいを通じ、農業の重要さや食の大切さ、地産地消への関心を高めることを目的に農作業体験を実施。

【取組の内容】

○ 農業体験学習

水稻の田植え・収穫体験の前段として、福岡県北九州普及指導センター職員から農産物の産地や米作りの歴史等に関する授業を実施。



田植え・
収穫体験の
事前学習



○ 農作業体験・餅つき体験

農業者の指導の下、水稻の田植え・収穫体験を実施。また、地域の自治会やPTAの方々と協力し、収穫した水稻から餅つき体験を実施。



田植え



稲刈り



餅つき

【取組の成果】

農業体験を通じ、児童から、

- 買い物の時、中間市産のお米を買うようになった
- 農業の大変さを知り、この大変さを考えながら食材を食べたい
- 貴重な体験が出来てよかった。また体験したいなどの感想があった。

農業体験・農業者との交流により、農業の大変さや地元農産物への興味、食べ物の大切さへの理解向上につながった。

【事業の目標】

① 農林漁業体験した者の延べ人数

- ・事業実施前：0人
- ・事業実施後：273人

② 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を選ぶ者の割合

- ・事業実施前：69.8%
- ・事業実施後：81.0%

